

森林総合研究所ワークショップ
どこへ向かう、中国木材市場
～我が国の林業・林産業への影響～
開催報告

平成19年8月8日午後1時から文部科学省研究交流センターの国際会議場において「どこへ向かう、中国木材市場～わが国の林業・林産業への影響」というテーマでワークショップを開催しました。ワークショップは、鈴木和夫理事長のあいさつの後、行政、研究、業界、それぞれでご活躍中の下記の下記の3名の方々からご報告をいただきました。

○森田 一行 氏(林野庁木材貿易対策室長)「中国木材市場拡大による近隣諸国への影響と動向」

○山根 正伸 氏(神奈川県自然環境保全センター研究部)「中ロ木材貿易の実態と動向」

○加藤 善也 氏(双日株式会社 建築・木材部門)「中国での木材ビジネスの現状と今後」

休憩をはさんだ後、林良興(森林総合研究所監事)から違法伐採対策と中国の木材産業について、また平野悠一郎 氏(東京大学新領域創成科学研究科)から中国林政の大きな変化と林業、林産業についてコメントをいただきました。

その後、報告者、コメンテータ、会場の参加者を交えて討論を行いました。会場には約50名が集まり、参加者の所属は、大学関係者、県庁、研究所、商社、マスコミ、NGOなど多様で、様々な観点から討論が行われました。

これらを通して、次のことが明らかとなりました。

(1) 中国の政治、経済、社会の動きは早く、ダイナミックに動くことから全体像を描くことが困難である。ただし、大きな流れは把握が可能であるので、実態把握を行う必要がある。

(2) 中国は加工の場という位置づけから中国自体が市場であるという認識に変わってきている。ただし、市場開拓には多大な困難がともなう。

(3) 単に中国の動きを追うだけではなく周辺諸国との関係の中から見ていくことが重要である。とりわけ、ロシアの木材供給の動向が重要である。